

麻酔科では、手術を受ける患者さんが安全に治療を受けられるように、手術中の全身管理を担当しています。麻酔は単に「眠らせる」だけではなく、痛みを取り除き、呼吸や循環を安定させ、体への負担を最小限に抑える重要な医療です。また、集中治療や救急医療、痛みの治療などにも深く関わっています。

私たちの体は、病気や手術による大きなストレスを受けると、呼吸や血圧、心拍数などが大きく変化します。麻酔科医は、人工呼吸器やさまざまなモニターを用いて体の状態をリアルタイムで観察しながら、患者さんの生命を支えています。手術中はもちろん、手術前から手術後まで、安全に回復できるようにサポートすることも重要な役割です。

近年では、高齢化や医療技術の進歩により、より重い病気を持つ患者さんや高度な手術を受ける患者さんが増えています。そのため、麻酔科では「より安全な麻酔」や「術後の早期回復」を目指した研究が盛んに行われています。また、人工知能（AI）や最新の画像診断技術を活用し、呼吸や循環の状態をより正確に評価する研究も進められています。

今回のオープンキャンパスでは、麻酔科医の仕事や手術室での役割、集中治療や救急医療との関わりについてご紹介します。麻酔に関するトリビアをクイズ形式で楽しく学んでいただく予定です。また、研究室の実験機器を説明しながら、われわれが現在おこなっている研究についても紹介します。